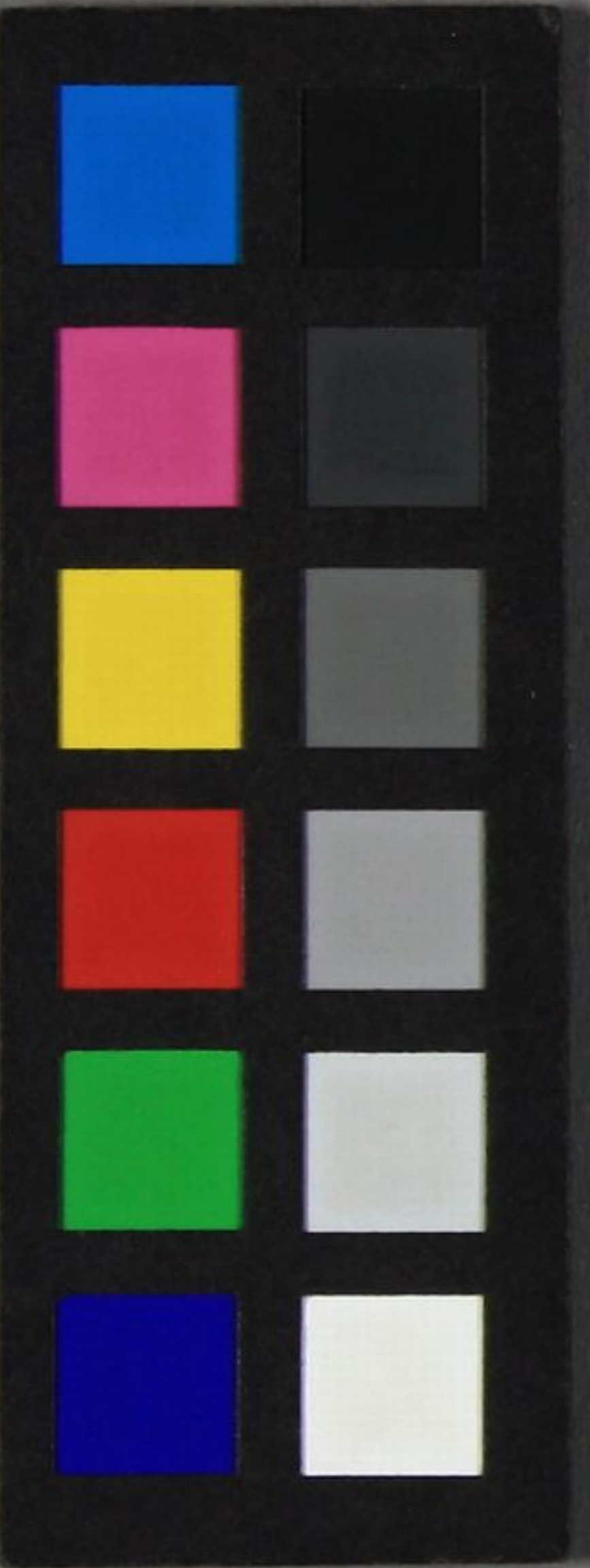


みづほのや作歌
電裳子作曲

地理
北旅
信濃唱歌
第一

松本 高美書麿發兌





みづはのや作歌
電裳子作曲

地理
北嶽 信濃唱歌 第一

松本 高美書廬發兌

信濃唱歌 (第壹集) 霓裳子作曲



ふかしの しろの一 たいまつ に
 ニーシニ ソビユル ノリクラ ヤ
 いでがわ こねて一 むらいし く



まだきえ の一こる あさもや を
 ヒガシニ ターカキ エボシダ ケ
 い一こう やしろの もりかげ に



かえりみ し一つつ いさまし く
 ナーカラ ナガルル ナライガ ワ
 か一みの みいつを おろがみ て



いでたつ み一ちは ちりのた び
 アーツサ ガワラモ ソコナレ ヤ
 いのるも し一ばし たびのさ ち



近刊豫告

の地理 旅 **信濃唱歌** 第二集

北信の巻 (定價六錢)

假名遣は總べて文部省新
 定に依る但助字の「は。を」
 は然らず 著者いふ



ト調 信濃唱歌 (第壹集) 霓裳子作曲

5.5 1 1 | 2.2 2 2 | 5.3 3 1 | 2 0 |
 - = - - - | - = - - - | - = - - - |

ふあしの しろの一 わいまつ に
 ニーシニ ソビユル ノリクラ ヤ
 いでがわ こえて一 むらいし く

1.1 6 5 | 1.2 3 2 | 1.2 3 2 | 1 0 |
 - = - - - | - = - - - | - = - - - |

まだきえ の一こる あさもや を
 ヒガシニ ターカキ エボシダ ケ
 い一こう やしろの もりかげ に

5.5 6 5 | 3.2 3 5 | 2.1 2 3 | 2 0 |
 - = - - - | - = - - - | - = - - - |

かわりみ し一つつ いさまし く
 ナーカヲ ナガルル ナライガ ワ
 か一みの みいつを わろがみ て

1.2 3 2 | 1.6 5 5 | 1.2 3 2 | 1 0 |
 - = - - - | - = - - - | - = - - - |

いでたつ み一ちは ちりのた び
 アーヅサ ガワラモ ソコナレ ヤ
 いのるも し一ばし たびのさ ち



の地
 旅理

信濃唱歌

第一集

南信の巻



1

深志の城の老松に
 顧みしつ、勇しく
 未だ消江のこる朝もやを
 いでたつ道は地理の旅

松本より木曾

深志

2 西にしに聳そびゆる乗鞍のりくらや

東あづまに高たかき鳥帽とりぼうし子こ岳だけ

中なかを流ながる、奈良井川ならいがわ

梓河原あつさもそこなれや

3 出川いでがわこ江えて村井驛むらいしやく

神かみの稜威みづゑをおろがみて

祈いのるもしばし旅たびのさち

いこうやしろの森もり蔭かげに

乗鞍岳
鳥帽子岳
奈良井川
梓川
出川
村井

4 甲州街こうしゅうかい道みちはあれごかよ

わがさす方は木曾きその谷たに

こ、は追分おいわけ原はら新田しんてん

桔梗ききょうが原はらも程ほど近ちかし

5 茅原ちのはら萱原かやのはら鋤すきか江えて

昔むかしにかわる畑はたの様さま

矢並やなみつくろい戦たたかいし

歴史れきしを今いまも残のこれども

甲州街道

原新田

桔梗原

6

旭あさひ將しよ軍ぐん義よし仲なかの

駒こまをを洗あらいい一し清しみづ水みづここて

今いまにに流ながれてて名なにに高たかき

洗せ馬ばのの驛うまやももここ、なれれや

7

本もと山やま行ゆけけはは櫻さくら澤さわ

ここ、は木き曾そ路ぢのの初はじめめここて

所ところかかわわれれはは品しな變かわるる

世よのの有あり様さまののれれががししささよ

洗馬
本山
櫻澤

8

送おくりり迎むかううるる村むらここ村むら

贅にほ川がわ平ひら澤さわははやや過すぎぎて

奈な良ら井いのの里さとにに眺ながむむれればば

山やま々々青あおくく水みづ白しろし

9

鳥とり居い峠ごうげはは南なん北ほくのの

彼かれれここここれれここのの分ぶん水すい嶺れい

峯みねににたたちちたたるる御み鳥とり居いはは

御おん嶽たけ山さんのの遙よ拜はい所じよ

贅川
平澤
奈良井
鳥居峠
御嶽山

10

行くての方を見渡せば
一筋細き木曾の川
流れて海に入る水も

木曾川

11

藪原宿に家土産の
小櫛もこめて宮の越
行けばいつしか日はくれて
鐘こり響け徳恩寺

藪原
宮の越

徳恩寺

12

諸行無常のためこそ
武勇すぐれし義仲も
時に利あらず徒らに

13

福島町は郡内に
一の町こそ賑わしく
こにも御代の験こそ
教の子等を集ひつゝ

福島町

14 命いのちをからむ棧橋かけはしや

上松あけまつ驛しゆくを過ぎ行けは

世よに浦鳴うらなみの物語ものがたり

寢覺ねぞめの床とこのおもいろさ

15 道みちのかた江えに山姫やまひめの

布ぬいをかけたる小野おのの瀧たき

落ちて行衛ゆくゑは木曾川きそがわ邊べ

こ、も名所めいしょの須原すはら驛しゆく

棧橋

上松

寢覺床

小野瀧

須原

16 狭せまりゝ谷たにの廣ひろくゝて

地味ちみも肥こ江えたる小平地しやへち

里さとの名なもよき大桑おおくわに

家いへの榮さか江えは見みゆるなり

17 野尻のじりを過すぎて中河原なかがわら

三留野みつるのも今いまは讀書よみかきの

名なに改あらたまる大御代おほみよは

妻籠つまごの里さとも開ひらけたり

大桑村

野尻中河原

三留野讀書村

妻籠

18

川かわごわかれて行道ゆくみちの

馬籠嶺まごうげに杖つえたてて

過すぎ來こ一方かたを眺ながむれば

雲くもころ迷まよ江谷えだにの隈くま

19

出いづる山やまの端は入いる峯みねの

日ひ蔭かげ短みじかき木曾きその里さと

駒こまもいななく夕暮ゆぐれの

馬籠まごめの宿しゆくにつきにけり

馬籠峠

十

20

故郷こきやうを西にしに三十里さんじゆり

旅たびのやかたに筆ふでこりて

記しるし今宵こよいの夢ゆめやいかならん

今宵こよいの夢ゆめやいかならん

木曾より伊那諏訪

21

木曾きそ路じを過すぎて伊那いなに入る

道みちは十餘里じゆりの中なかの

大平嶺おほひらねをこ山路やまじくのけわさよ

大平嶺おほひらねをこ山路やまじくのけわさよ

太平嶺

郡下伊那

十一

22

市の瀬風越上飯田

高森山を北に見て

着きしはいづく飯田町

下伊那一の大都邑

23

南をかぎる松川は

四季のながめの名勝地

南へ三里名も高き

天龍峽も行きで見ん

市の瀬
風越
上飯田

高森山

飯田町

松川

天龍川

24

松尾瀧丘伊賀良村

宛かも鼎の如くにて

何れいろしむ教育の

開くる様ろありかたき

25

古歌にもしるき箒木の

園原山や駒場や

皇子の古跡の波合も

急ぐ旅にはすべもなく

松尾村
瀧丘村
伊賀良
村
鼎村

園原山
駒場

波合

26

飯田元結阿島傘
立石柿もこりろ江て

阿島
立石

吾れを待ちます故郷の

其の父母に参らせん

27

座光寺村は古の
釋迦無尼佛のまゝ所

座光寺
村

市田大島この北は

はや上伊那の管轄地

市田
大島
上伊那
郡

28

與田切こ江て飯島や
中の田切を過ぎ行けは

與田切
川中島
飯島
川中切

かなたに續く赤穂町

大田切ころま近けれ

赤穂町
大田切
川

29

宮田澤渡伊那の町
河を東に山を西

宮田
澤渡
伊那町

田畑も遠く開けつゝ
さも豊かなる景色かな

30

川の向いに厳めしき
農学校も建てられつ
郡の役所に警察署

31

松島行きにふりわかれ
商うわざも盛んなり
東に高く聳江たる
兜が城の城の跡

松島
高遠町

兜城

32

明治の初め廢藩の
なごりをとめし公園地
大和心のさくら木の

33

川をへたてし五郎山
仁科五郎が墓所
石なめらかに苔青く
松ふく風もむせぶなり

五郎山

34

山の細道折れめぐり

長藤川に從ひて

行けばいつしか長藤や

藤澤村もはや近し

35

つかれて憩う峠路の

名は杖突と誰がつけ

峯にのぼりて眺むれば

東に高き八ヶ岳

長藤村

藤澤村

杖突峠

八ヶ岳

36

其の山浦は十數の

村に分れて農産の

妻は糸うむ背は田打つ

教江の庭に子は急ぐ

37

富岳の雪は見江ねども

南に近し甲斐の山

北は直ちに一刷毛の

さぐなみ青き諏訪の湖

山浦

諏訪湖

38

健御名方の宮居こて
稜威かしこき神宮寺

神宮寺

幾世木高き松が枝も

神さびてころ見江にけれ

39

湖水の周囲は平にて

こ、にも村は十あまり

中に賑う上の諏訪の郡の一の町

町上諏訪

40

高島藩の古城跡

高島城

石垣高く見渡せば

かなたに霞む富士の山

富士山

衣が崎もろこなれや

衣が崎

41

た城のあこの公園地

柳櫻をこぎまぜて

都の春は知らねども

實にや錦の心地する

42

このもかのものに立つ石に

形見と残る文字のあこ

ろこに名高き古の

芭蕉の句碑も見て行かん

43

小船

にのりて北の方

下諏訪さして漕ぎ行けは

櫓の音ゆるく吹く風も

われを追いくる心地よさ

町下諏訪

44

左につづく烟突は

岡谷村の製糸場

岡谷村

眺むるまなくはやこゝは

下諏訪町の町はづれ

45

顧みすれば高島の

町は烟にこぎ、れて

海の上ひく夕もやに

曝手の並木かすかなり

46 天龍道士の墓をこい

行けば神社の鳥居前

官幣中社の名も高き

春の宮ころ尊けれ

47 仲仙道に行きあいて

長地の里をこ江くれば

筑摩も近し塩尻や

のぼるはつらき峠道

東筑摩郡塩尻

48 くたりて一里同じ名の

町に憩いて片丘や

ろこは牛伏寺いつしかに

壽村もすぎにけり

49 長き旅路の恙あく

再び歸る松本に

父やおつらん母やまつ

わが故郷がなつかしき

壽村

松本より安曇

50

松本町を南北に、女鳥羽川

松本町

女鳥羽川

千歳橋

千歳橋の側近き

電信局や警察署

51

堀をはさみて立ち並ぶの西に

女子部

聳江て高き幾棟は

松本中學校

これぞ松本中學校

52

故城の松は老いたれど

今に變らぬ天主閣

のぼりて見れば村里の

煙も低く、たなびきて

53

山邊の里に出づる湯の

わくにかゝれる白糸や

北にこなりて賑わしき

これぞ浅間の温泉地

浅間

山邊

白糸湯

天主閣

54

筑摩出れば安曇郡

南安曇郡

郡は二つに分たれて

北安曇郡

西をかぎれる槍が岳

槍が岳

乗鞍岳や穂高岳

乗鞍岳 穂高岳

55

島内過ぎて梓川

島内村

橋の袂に眺むれば

梓橋

有明山は巍々こして

有明山

われを招くが如くなり

57

穂高神社はかこくも

穂高神社

榮ゆる様ぢたのもしき

何れ劣らぬ農商の

穂高村

高家。豊科。穂高村

56

松原越江て北にゆく

高家村

社格は縣社式内の

神の功德のありがたさ

58 一道直に行く道の

池田の里にゐがむれば

西は松川常盤村

かゝたに高き信濃富士

地理に學び登波離橋

こゝのあたりの名所にて

山と山にかけ渡す

橋は絶壁二十丈

池田町
松川村
常盤村
信濃富士
登波離橋

60 犀川下れば山清路

岩と岩この中をゆく

水もみどりに秋は黄の

錦をさらす山の上

61 越後も近し大町や

吹きくる風も肌寒く

高瀬の川の瀬の音は

旅の枕に通うなり

山清路

大町

高瀬川

62 教江のわざにつくすなる

民の心のうれしさは
たてし校舎も備わりて

實にたぐいなきうつくしさ

63 木崎中綱青木湖や

三つの湖波さよく

岸をかこめる青山も

夏は涼き景色かな

木崎湖
中綱湖
青木湖

64 坂をさかいに南北の

地勢も二つにわかたる、

佐野のあたりの夕まぐれ

さころは物のれもはるれ

佐野坂

65 神城北城とくすぎて

南小谷につきにけり

山と山の中なれば

其の名もかくは名づけけん

神城村
北城村

南小谷

66

姫河ひめかわろうて北小谷きたおたり

道みちは越路こしじの國くにに入る

越後
北小谷

衣ころもなびけてた、ずめは

山やま風かぜ寒さむく通かようなり

の地理
信濃唱歌 第一集 終

發行者の印きをもは偽版とす

明治三十三年十二月廿五日印刷
明治三十四年一月二日發行

定價金六錢



著作發行者兼
長野縣松本町百七拾貳番地
高美實 五郎

印刷者
全縣全郡三千二百廿五番地
小林佐三

印刷所
全縣全郡四百三十番地
松本印刷株式會社

發兌元
大賣捌所

松本々町二丁目
長野市大門町

慶林堂
高美書店
松葉軒
西澤喜太郎

縣下販賣所

松本 水琴堂 松榮堂 鶴林堂 明倫堂 增屋書館 長野 朝陽館 同 協和堂 同 西澤支店 上田 小林佐平治 同 木村半兵衛 同 日新堂 同 文弘堂 同 三光堂 同 盛文堂 同 湊屋書店 下諏訪

飯田 同 伊那 高遠 赤穂 木下 小野 岡谷 同 穗高 池田 同 大町 同 福島 和田

皆川文星堂 今村書房 福澤文星堂 矢島書店 信陽堂 開明堂 萬屋書店 三省書堂 三井書店 小川書店 平林書店 寺岡書店 松本正信 丸屋廣吉 藤森書店 鈴木商店

洗馬 小諸 同 岩村田 同 白田 同 稻荷山 同 屋代 同 松代 須坂 飯山 野澤 同 高野 望月

文 廣文堂 鹽川清之助 文盛館 昇進堂 依田儀三郎 小出喜作 寺澤鶴吉 平林書店 共和堂 山下條三郎 芳潤堂 岩下袈裟吉 綿內書店 高見澤和市 青木泰藏